

第8回東アジア獣医ジョイントシンポジウム（台湾, 2017年）参加報告

鳥取大学・准教授 寸田 祐嗣

平成 29 年 2 月 19~21 日に国立中興大学（台湾）にて開催された標記学会に参加させていただき、keynote lecture の講師として、狂犬病の予防・治療についての実験病理学的研究について紹介いたしました。島国である台湾は、日本と同様に狂犬病清浄国でありましたが、2013 年に野生イタチアナグマ（ferret badger）から狂犬病ウイルスが検出され、話題となりました。そのため、狂犬病のトピックは、興味を持って聴講してもらえるかなと期待しておりました。ただ、本講演では質疑応答の時間はなく、ただ一方的に発表し、立派な certification と大きな拍手をいただく、という一連の流れであり、大変恐縮しました。下壇後に、フロアにて数名から質問・コメントをいただきましたので、少しは反応があったのかな、と思っています。また、語学力の向上ならびに短時間で要点を伝える表現力の醸成は、海外学会参加の度に痛感させられる私自身の課題です。

本シンポジウムは第 8 回目の大会であり、私は今回がはじめての参加でした。参加各国からの発表を拝聴した感想は、「研究の個性が乏しい」ことでした。特に、「手法ありき」で進めた研究発表がやや目立ち、研究目的が不鮮明なため、的を得た質疑応答が乏しい印象を受けました。今後、日本・韓国・台湾・タイが中心となり、東アジアの獣医学教育・研究レベルの底上げを継続して推し進める必要性を感じました。また、本会は、東アジア獣医系大学同士の交流・情報交換に最も意義があり、特に、1. 日本へ留学し学位取得を目指す優秀な人材の発掘・教育・母国への還元、2. 日本人学生の国際性の涵養、3. 積極的な共同研究の推進、4. 関連学会との連携、等に意識した維持・運営が望ましいと感じました。

最後になりましたが、貴重な機会を与您いただきました山口大学連合獣医の関係各位に深謝申し上げます。

